



6年の歳月を経て五加バイパス完成

昭和63年工事が始まって、この11月全線が開通した五加バイパスの完成式典が、去る11月28日盛大に行われました。

今年完成した柏本橋と平成3年完成の下野橋の渡り初めには、柏本の古田眞之助さんご家族9人が三代夫婦として参加。また、柏本橋の橋名板の筆者、大坪佐和子さん（上親田）、安江伸予さん（神付）、今井あいさん（平）、鈴木春菜さん（陰地）の手によって橋名板の除幕も行われました。



五加保育園児の手でくす玉がわれました



橋名板を除幕した安江さん、今井さん

広報 ひがししらかわ

1994 12 No.402
平成6年

人口の動き

一1月末住民登録人口から一	
世帯数	907世帯
人口	3,394人
転入	
転出	7人
出生	9人
死亡	1人
	4人
先月と比較して5人減	
昨年と同月と比較して	
62人減	

21世紀の村づくりに

たくさんのお声



いただきました。ありがとうございました。

今年八月に全世帯を対象に実施した住民アンケートがこのほどまとまりました。これは住民の皆さんの意見や提案を今後の村づくりにいかしていくために実施したものです。結果をご報告します。

●村への評価 (住みやすさ)

(単位：%)

〈世帯主〉	住みやすい 49	どちらかといえば住みやすい 31	9	3	未回答 8
〈主婦〉	40	37	12	2	9
〈若者〉	27	36	どちらかといえば住みにくい 25	住みにくい 9	9

●定住意向

(単位：%)

〈世帯主〉	住み続けたい 78	5	その他 8	未回答 9
〈主婦〉	82		9	8
〈若者〉	27	村外に出たい 34	23	16

《アンケートの目的》

・21世紀への村づくりに対する村民の皆さんの考えや日ごろの村政に対する意見や要望などをお聞きして第三次総合計画づくりのための基礎資料とするもの。

《回収の状況》

- ・世帯主 704人〔対象906人〕(77.7%)
- ・主婦 677人〔対象776人〕(87.2%)
- ・若者 165人〔対象211人〕(15～24歳) (78.2%)

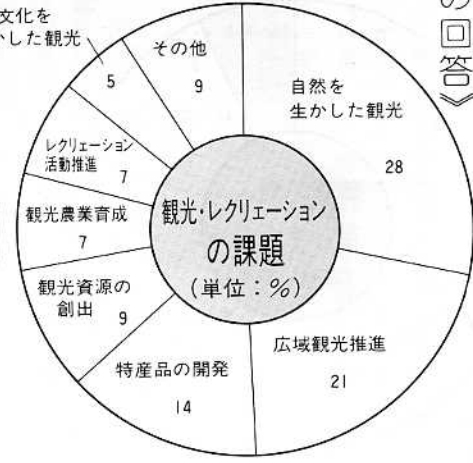
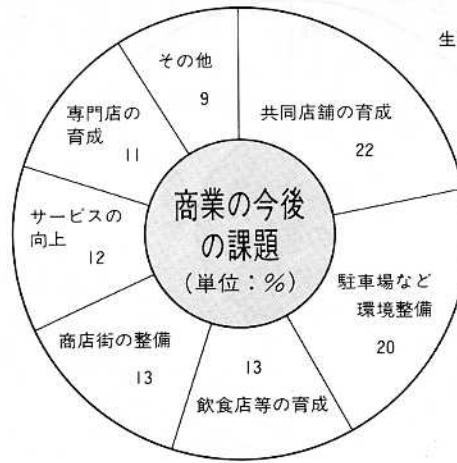
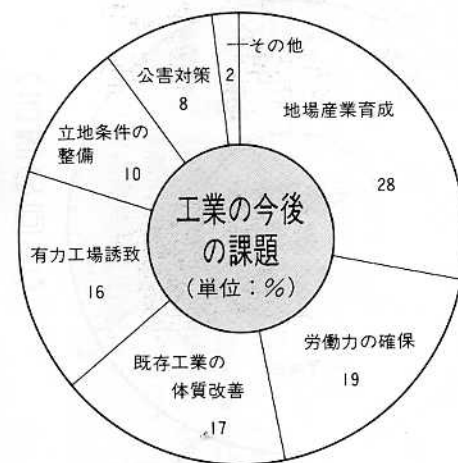
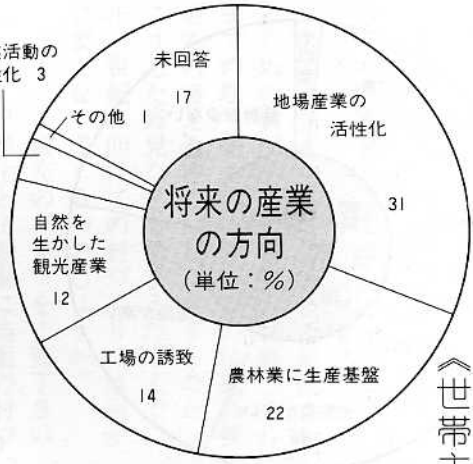
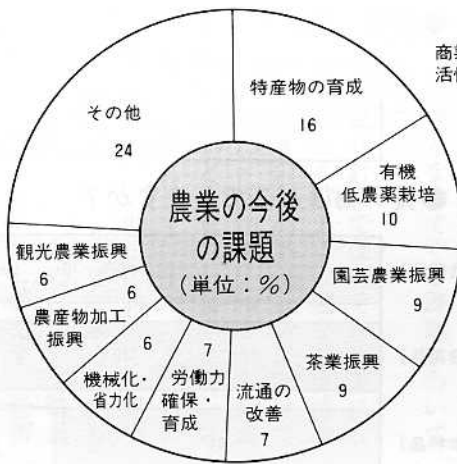
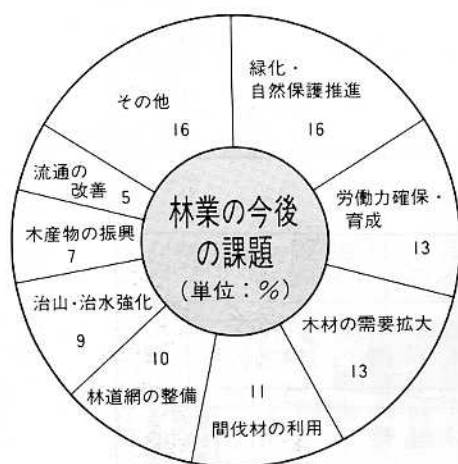
※対象者数は住民基本台帳からの推計

若い世代から 厳しい評価

村づくりの将来目標を掲げた、いわば村の「設計図」ともいえる総合計画現在の第二次総合計画(昭和六十一年策定、目標平成七年)がその期間を終えようとしています。今までの村づくりはどんな評価を得ているのでしょうか。上の二つのグラフをご覧ください。今回のアンケートの対象とした、世帯主、主婦層、若者の皆さんに共通の質問として「村の住みやすさ」と「定住意向」を尋ねたものです。

世帯主と主婦層は「どちらかといえば、住みやすい」という意見も含めれば八割程度が「住みやすい」「住み続けたい」という考えで、比較的高い評価がうかがえますが、その反面、将来村を背負う若者の考えは、「どちらかといえば住みにくい」という意見も含め、「住みにくい」「村外に出たい」という考えがともに全体の三四割占め、今後、後継者問題を考えるうえでも、若者が魅力を感じる村づくりを進めることは、重要な課題の一つといえます。

《世帯主の属性》	
性別	男 八六・一％ 女 八・七％
年齢	二四歳以下 一・三％ 二五～二九歳 一・五％ 三〇～三九歳 六・一％ 四〇～四九歳 一七・四％ 五〇～六四歳 四一・八％ 六五歳以上 二九・三％
職業	農林業 二五・四％ 建設・製造業 一九・五％ 会社等勤労者 一八・九％ 卸・小売業 六・〇％ 官公庁 五・八％ 団体職員 三・〇％ サービス業 一・九％ 無職 一・〇％ その他 四・二％
就業地	村内 六六・七％ 可茂地区 七・五％ その他の県内 一四・七％ 愛知県内 二・一％ その他 一・三％



《世帯主の回答》

第二次総合計画に盛り込まれたはなのき会館



**地場産業の活性化
特産物の育成が課題**

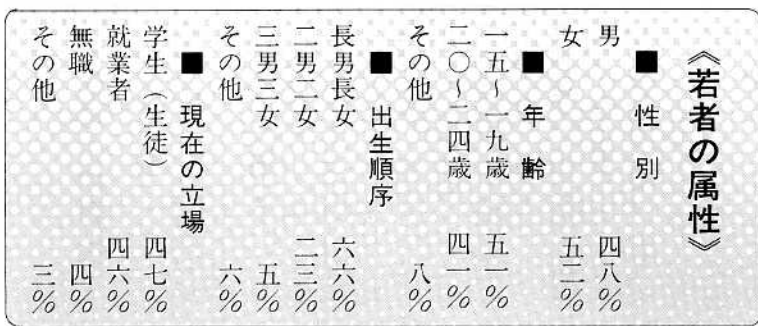
上の六つの円グラフは、世帯主の皆さんに答えていただいた、将来の村の産業についてと各産業分野における今後の課題についての質問です。

全体を眺めてみて、共通している点として「地場産業の育成や活性化」、「特産品の開発、育成」、「自然を保護し、それを生かした観光産業」などが、産業分野を問わず皆さんの意見をまとめており、観光などの新しいジャンルの産業への関心が高いことがうかがえます。

課題の中では特に農林業の「労働力の確保・育成」は、切実な課題としてたくさんの方の意見を集めました。

また、グラフは掲載しませんでした。が、村の将来の人口についてを尋ねた質問には、約四割が「増やすべきである」と答えています。

《次ページに続く》



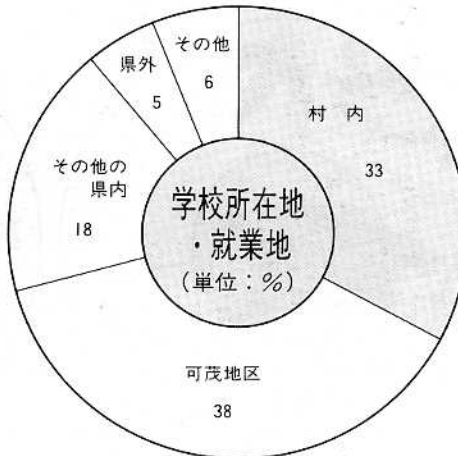
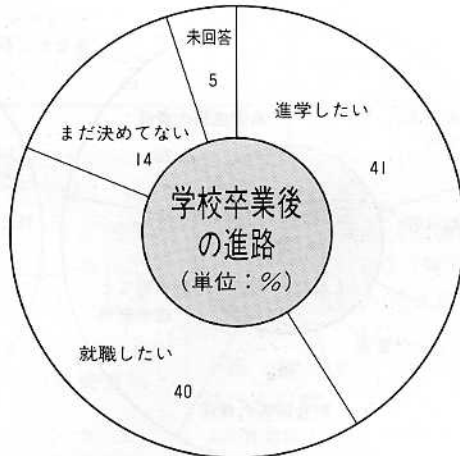
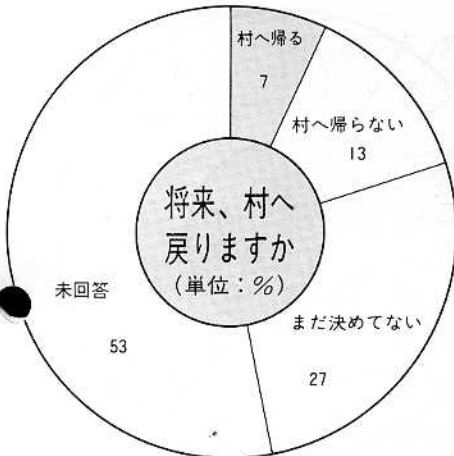
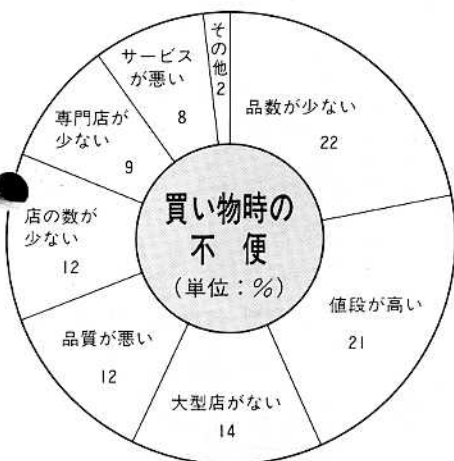
●現在、働いていますか？

(単位：%)

勤めている	46	勤めていない	54
村内	76	可茂地区	6
その他の県内	5	県外	2
未回答	11		

●買い物はどこでしますか？

[食料品]	村内 76	可茂地区 9	その他の県内 2	5	
[日用品]	70	12	8	9	
[衣料品]	44	31	11	愛知県 6	未回答 8



主婦層・若者の

考えは……

上のグラフは、今回のアンケートで主婦層と若者に尋ねた質問の回答です。まず、主婦層の回答について見てみましょう。「現在、勤めているかどうか」の質問では、約半数の四六割の皆さんが「勤めている」と答えています。ほ場整備事業によって農業の機械化が進み、農家で生じた主婦層の余剰労働力がもたらした結果といえるでしょう。

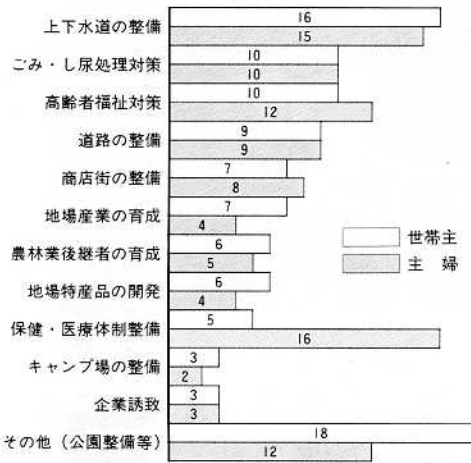
主婦層にとって「買い物」は大切な仕事の一つ。買い物について、食料品、日用品、衣料品の別に見てみると、毎日のことである食べ物については、村内で求める人が七六割と大半を占めますが、衣料品などになると村外で買物をする人が半数以上を占めています。また、買い物時に不便を感じるということについては、上段左の円グラフのような結果となりました。

若者については、今回の対象は、十五歳から二十四歳まで。この中には、中学生から大学生までの学生と社会人が含まれています。注目すべきものとしては、最終学校卒業後、村へ帰るかどうかを尋ねた質問です。「村へ帰らない」と答えた人は、百六十五人中二十二名(一三割)。この質問に関しては、未回答が非常にたくさんありましたが、二ページの「村への評価」、「定住意向」の結果を裏付けるものとなりました。

《主婦層の回答》

《若者の回答》

●当面の村づくりの課題



●21世紀の村づくりに求められるもの

(単位：%)

	居住環境の整備 27	福祉の充実 26	農林業の安定 15	10	9	工業の充実 8	その 5 他	
〈世帯主〉								
〈主婦〉	22	23	6	7	15	4	5	
〈若者〉	15	15	3	観光施設やレクリエーション施設の整備 18	商店街の整備 21	6	教育文化活動 5	自然環境に富んだ村 16

「これからの村づくりに必要なものは……」

前ページまでは、対象者の属性を知るための質問や現在の村の課題、これまでの取り組み方についての住民の皆さんの考えを中心にみてきましたが、こうした意見なども踏まえたいうえで二十一世紀に向けての村づくりには何が必要となってくるのでしょうか。

まず、上段左のグラフをご覧下さい。これは、世帯主と主婦層に当面の村づくりに必要となってくる課題について尋ねたものです。

第三次総合計画では、その目玉になると考えられる、上下水道など生活環境に対するものや高齢化社会に向けての対策、また、活性化につながる産業面での対策などに意見が集中していることがうかがえます。また、上段右のグラフは、二十一世紀に向けての村づくりに求められるものについて尋ねたものです。世帯主や主婦層からは左のグラフと同様に、居住環境の整備や福祉の充実を求める意見が約半数を占めています。その反面、若者の意見からは、商店街の整備や観光、レクリエーション施設などの整備を望む意見がたくさん出されており、こうした点からも「若者にとって魅力ある村」とは何かをうかがうことができるのではないのでしょうか。

アンケートの中の村行政に対するご意見やご要望を書いていただく項目には、世帯主から一六三件、主婦層から一二九件、若者から一九件の意見を寄せていただきましたが、今回はその全てを網羅することはできませんのでその中の一部を紹介したいと思います。

最も意見が多かったものは、「自然環境保護」に関するものです。「白川の汚れ」を指摘するものや「自然破壊」を懸念するもの、再生紙利用などの「リサイクル活動の推進」などがそのおもなものです。次いで多かったものは、「公共施設」に対する意見です。「維持管理は大丈夫か」「利用は見込めるのか」「村の財政は……」といったものが含まれています。さらに国道二五六号線を含めた道路改良に関する意見、簡易水道や

下水道の早期設置を望む声、高齢者対策に関するものなどがその上位を占め、中には、直接村行政に対して、「住民の意見を聞く取り組み方」や「PR不足」など、より地域に密着した住民参加型の行政を望む意見もありました。

また、少数意見でしたが、「若者が楽しめる場を作る」「天体観測所を作る」「美濃加茂市に村営の下宿を作る」など建設的な意見も見られました。

村では、今回の調査結果などをもとに住民の皆さんが何を望んでいるのかを、的確につかみながら新しい総合計画づくりを進めていきます。貴重なご意見ありがとうございました。

総合計画審議委員決まる

総合計画の策定にあたっては、住民の皆さんの意見をより反映するため、村議会議員や知識経験者、各種団体等から十五名の方を総合計画審議委員会に委嘱して審議会を開き、計画の内容について検討していただきます。

十一月二十四日には、第一回の審議会が開かれ、会長に安江慎一郎さんが、副会長に今井啓市さんが選任されました。なお、委員の皆さんは次の通りです。(敬称略)

- 【議会の代表者】古田眞之助(柏本)、村雲直樹(中通)
- 【教育委員会の代表者】村雲忍(陰地) 【厚生福祉団体の代表者】安江慎一郎(上親田) 【農業協同組合の代表者】安江久治(日向) 【森林組合の代表者】村雲規造(上親田) 【商工会の代表者】木村成人(上親田) 【青年、婦人層の代表者】村雲辰善(下親田)、早瀬智登子(上親田) 【各地域の代表者】村雲英子(神付)、牧野知幸(日向)、五十川恵子(久須見) 【知識経験者】安江建夫(平)、今井啓市(陰地)、熊澤梅子(日向)



大家族に恵まれた宏子さん

戦争を知らない世代の満州

第2次東柳毛溝等調査団訪中記 (後編)

東白川村でただ一人、今なお中国の北部で暮らす「安江宏子さん」。戦後五十年を迎えようとしています。が、まだ、「戦後」とは呼べない事実を中国黒龍江省鶴立で体験しました。

第二次東柳毛溝等調査団員 桂川憲生（林務商工課振興係主査）手記

中国で五十年を 迎えた安江宏子さん

今回、宏子さんを訪問したのは二つの目的がありました。まず、国が国費で帰国支援を行うこと、また、村としても受け入れについて用意があることを伝えること。そして、初めての日本からの訪問ということ、宏子さんの暮らしを村へ紹介することです。

九月五日から十一日間にわたる訪中。前半五日間で東柳毛溝の調査を終了し、安江久夫団長と笹俣俊夫さん、東海テレビの撮影班三人と私の一行六人は、安江宏子さんの住む中国黒龍江省鶴立へ、朝の五時から夜九時ま



丁寧に飾られた日本での思い出の写真

での長い列車の移動となりました。

宏子さんの住む街鶴立鎮（町）は、平野部の田園地帯で、人のにぎわいの具合は、美濃加茂市程度といったところです。人と馬車の往来が激しく、露店商と土ぼこりが町を埋めていました。目に涙をいっぱい浮かべながら宏子さんは、私たちを迎えてくれました。子どもが六人、孫が十一人、ひ孫が一人、婿、嫁も含めて二十五人がこの日のために集まって私たちを歓迎してくれました。もちろん村へも来たことがある永利さん、雪さんの元気な姿もありました。

宏子さんの住まいは、レンガ造りの長屋の一角。居間が二つと通路兼台所だけというシンプルなものでした。これは、中国の典型的な住まいで、現在は、ご主人と二人暮らしとのこと。

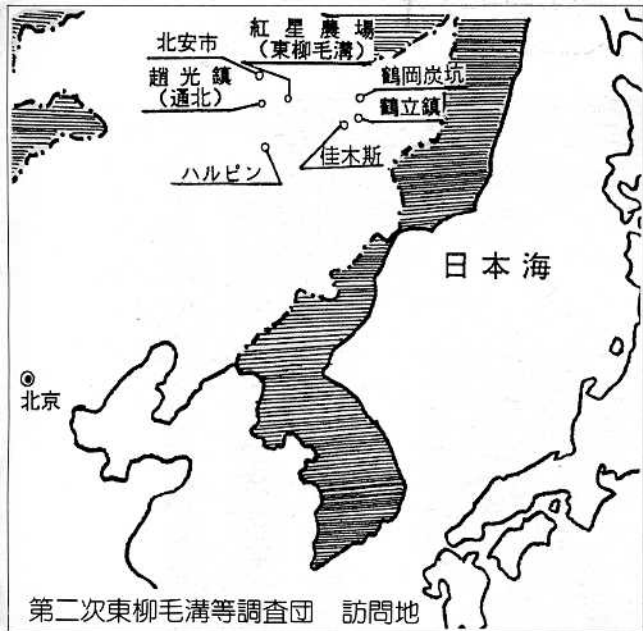
中国では、正月にしか食べ



左からご主人李鴻濱さん、笹俣さん、宏子さん、安江団長

ないという宏子さんの手料理は、旅行中でも私たちの口に一番あったものでした。やはりそれは、十五歳まで日本で暮らしたことにあるでしょう。また、居間には、日本で撮影した写真が丁寧に額に入れられ、飾られていました。帰国については、子ども、孫の全員が宏子さんの日本への帰国を希望しており、宏子さんは、日本大使館からの帰国についての調査などについても家族には話せないほど帰国志望は強いものだと思います。特に日本に滞在したことのある永利さんや雪さんは、日本に対する憧れ、永住願望があるのは当然のことでしょう。

宏子さんのまわりにたくさんいた中



第二次東柳毛溝等調査団 訪問地

国日本人孤児は、おおむね全員が帰国し、鶴立鎮にはもう宏子さんのみが残ったということです。

宏子さんは、帰国について「日本人である以上、当然祖国に帰りたい気持ちには十分持っている。かつて帰国が始まった当初、養母が私に日本に帰ってしまったのではないかとひどく心配して泣いたことがありました。養父母には、私を救ってくれたことへの恩義があるので、それを振りきり帰ることはできなかった。ここに来て、多くの家族のことや、帰国しても主人との日本での暮らしには多くの不安がある。今とても悩んでいます」ということでした。

帰国については、今後十分時間をかけて検討し、その答を手紙で村長に返事をされるように伝えました。別れの場所となったのは、寒くて

暗い佳木斯の駅。涙、涙の別れでした。お互いに見えなくなるまで手を振って別れを惜しみました。

十月になって宏子さんから便りが届きましたが、もうすでに銀世界となっているとのこと。さまざま不安はあると思いますが、帰って来たかつたらすぐにでもどうぞといいたくなるような厳しい自然条件と生活習慣の違いをまざまざと感じました。

鶴岡炭坑の慰霊

私たちの世代が聞いたこともない名前「南山太楼」。これは、終戦と同時に満州からの引き揚げ者の中の若者五十二人が強制労働を八年間にわたり強いられていた鶴岡炭坑の宿舎の名前です。

場所は、宏子さんの住む鶴立鎮から北へ高速道路で約二時間。九月十二日、私たち一行は、今ではすっかり近代化されているこの炭坑街を訪れました。

敗戦に絶望し、帰路の途中におけるこの悪夢のような強制抑留は、私たちの想像を絶するものです。

今回の調査団の笹俣俊夫さんは、この強制抑留を体験した一人。笹俣さんは、この地で栄養失調と伝染病で倒れた十七人の



鶴岡炭坑の抗日にて

友の冥福を祈って十七の石炭を拾い、ささやかながら慰霊を行いました。

戦争は知れば知るほど、恐ろしく悲惨なものでした。これは、氷山の一角のできごとであろうかと思いますが、学ぶことの実に多いものでした。こうした機会を得たことに感謝し、今回の報告を終わります。

最後に、今回同行した東海テレビディレクターの阿武野勝彦さんが訪中報告書に寄せてくれた寄稿文を紹介しましょう。

「幸福」のかたち

「うれしい涙が流れます」安江宏子。

八月、宏子さんから届いた手紙には、そう記されていた。「遠く離れた国で、心配してくれる人がいる。そして何よりも日本からの便りがうれい」とも書いてあった。これは「九月に取材でお邪魔します」という私の手紙への返信である。

文面は、心情が真つすぐに表されていたが、心がきしむほど逡巡する切ない心境を訴えるような箇所もあった。それは『永住帰国』についてだった。

九月十一日朝、黒龍江省鶴立の郊外勝利街のご自宅に宏子さんを訪ねた。

私たちを出迎えてくれた宏子さんは、思ったよりも大柄だった。その大柄な女性が私たちの手を取りながら、しばし涙した。東柳毛溝までで、どっぷり開拓団の話に没入し、漬物に例えるなら、それこそ、中までヒタヒタになった。満州名物・開拓漬」という感じの私には宏子さんが初めて会う人のような気がしなかった。

夕食の支度を撮影した。鯉を油で揚げる豪華なものだ。宏子さんと一族の女性が庭でワイワイにぎやかだ。末娘の雪さんに尋ねた。「お母さんが日本人だと知った時、どう思いましたか?」

「うれしかった。なぜって、日本の人の人は、優しくって、お父さんを大事にしてくれるから。雪さんはほほ笑みながらそう答えた。

宏子さんは、こういった。「一人も立派な子はいませんが、皆、丈夫に暮らしています。働いていた会社がつぶれ、夫婦とも年金を打ち切られ、子どもたちも経済的に恵まれていないようだったが、捨て子をわが子としてかわいがる心優しい次男をはじめ、子孫一族二十五人に囲まれる宏子さん。この情景は、いつか見たようなあの懐かしい『幸福』のかたちだ。

吹き始めた秋風は、ほほに冷たかったが、中国の青い空の下、ボクの胸はじゅうぶんに温かかった。



10.18 調査報告会で、思い出を語る阿武野氏 (ふるさとセンター)

今年で十五回目を数える「東白川村産業祭」。

十一月二十日小学校で行われたこのイベント

に二五〇〇人を超える皆さんが来場しました。



大盛況！秋の実りの産業祭

＝ テーマ・田舎再発見 ＝

暑かった夏を思わせる
好天に恵まれて

今では、ずっと以前のことにさえ思えますが、今年の夏は、本当に暑い夏でした。この暑かった夏を思わせるかのような暖かい一日となった今年の産業祭。何かのイベントを行ううえで、お天気は大きな影を及ぼしますが、そうした意味では、スタートから大成功となりました。

今年のテーマは「田舎再発見」。今年一年の産業各分野での「実り」に感謝するとともに、足元を見つめ直し、とことん「田舎臭さ」にこだわって、いこうというもの。

この田舎臭さという面できわ人気を集めたのが体育館内の「二十一世紀に伝えよう『養蚕』絹文化」のコーナー。かつて、村の主要産業として君臨した養蚕業。現在でも、村内十数戸の農家で生産が行われていますが、この養蚕にスポットをあていろいろな角度から絹文化に迫った企画。中には真綿づくりの実演や機織りの実演などから繭細工教室や絹製品の販売はもとより、絹入りうどんや桑の実ワイン、さらには「ムツゴ」と呼ばれる蚕のさなぎの試食などまさに養蚕一色。



好評となった「養蚕コーナー」



表彰を受けたみなさん

朝九時からの開会式の中では、村の産業振興に功労のあった九人の皆さんの表彰式が行われました。表彰を受けたのは次の皆さんです。

- ☆産業振興功労賞（敬称略）
- 【養蚕振興】今井好美（西洞）
- 【林業振興】 苅田甲子郎（曲坂）
- 【商工振興】 神間一吉（平）
- 【農業振興】 中島克巳（神付）
- 【団体生産活動】 安江厚（陰地）
- 【園芸振興】 安江庄兵（黒淵）
- 【農業振興】 安江幹夫（大明神）
- ☆産業振興奨励賞（敬称略）
- 【商工振興】 山口直視（宮代）
- 【農業振興】 安江兼広（上親田）

養蚕業の勢いを感じさせる内容でした。このほかにも屋内会場では、恒例の農産物品評会をはじめ、「お茶まつり」では、「手もみ茶」の実演・体験コーナー、茶道教室、さらに懐かしいアニメビデオの上演やこれもまた懐かしい駄菓子販売など「田舎体験」にはもってこいの企画が目白押しでした。

大好評！大鍋まつり 小動物園・ビンゴ大会：



ちよつと三わいけど…(小動物園)

一昨年から始まってすっかり恒例の行事となったのが「大鍋まつり」。心も体も暖まる企画として好評ですが、

屋外会場では、「うまいもんバザー」を初め、各種団体からの出店などで大賑わいとなりましたが、今年の新しい試みとして、子どもたちの人気を集めたのは「小動物園」です。運動場に作られたこの特設の動物園、この日のために岐阜市にある県畜産センターや村内の農家からぶた、ひつじ、がちよう、いのしし、にわとりなどは、「家畜」をお借りしたものの。最初は、外から恐る恐る動物たちの頭をなでたり、えさをやったりしていた子どもたちも慣れてくると、柵の中に入っとうさを抱いたり、動物たちを追っかけたりと大ハシヤギ。中には動物たちのそばからなかなか離れない子もあるなど、日ごろはあまりお目にかかれない動物たちだけにこの企画も大成功だったようです。



さあ、いっしょに鍋をいかに…

今年も農業委員会から松茸ぞうすいが、園芸振興会からはしし鍋が、農業婦人グループから鮎ぞうすいが、さらにボランティア団体かすみ草からは和風シチューのなんだろう鍋の四つ、約千食分を用意。午前十一時三十分から感謝を込めて振る舞われました。また、大鍋まつりにひっつけた「鍋募金」は、五万一千七百三十四円が集められ、赤い羽根共同募金として寄付されました。

今年の産業祭の最大の呼び物といえど、ホットカーペットやマウンテンバイクなど豪華景品が当たる大ビンゴ大会。数字が呼び上げられるたびに「あった、ない」の大合唱。最後に行われた感謝餅投げまで本場に盛り上がった今年の産業祭でした。



数字が呼び上げられるたびに会場は絶叫

今年も9点を公認ギネス何でも村一番

産業祭ですっかりおなじみとなったものの一つに「ギネス東白川何でも村一番」があります。昭和六十一年にスタートして今年で九年目を迎えた村のギネス、昨年までに公認記録として登録したものは十一部門に百二十三点。このうち三十六点が記録を更新され、昨年までの公認記録は、八十七点です。

今年新たに二点が公認記録に加わり、また、これまでの記録を上回った七点が更新登録。産業祭の開会式に引き続いて行われた、認定証交付式では、代表して田口安幸さん(日向)に、認定委員長である村長から認定証が手渡されました。



代表で認定証を受けた田口さん

なかなかの記録更新が期待されていましたが、公認記録がある程度高いレベルになったことが更新記録の少なかった理由といえるでしょう。なお、今年認定された記録は次の通りです。()内は出席者

- 敬称略。▼スイカー重さ十三・四*(今井政信・大沢) ▼ヒヨウタン重さ五・九*(田口安幸・日向)
- ▼サツマイモ重さ四・九*(桂川幸・黒淵) ▼ケイトウ草丈一五九*(田口安幸) ▼コスモス一輪の直径一二*(神戸正躬・平)
- ▼ナマズ長さ五四*(重さ一〇六〇*(熊崎進・下野) ▼ウナギ長さ一〇七*(重さ二二〇*(今井房雄・大沢)。

また、体育館内のギネス展示会場では、公認記録の写真展示のほか今年認定された記録の写真と原寸大イラストによる展示に加え、ひととき目を引いたのは、サツマイモの現物展示です。これまでの三・八*という記録を上回ったものが二点、さらに三・七*のもの一点を展示。この迫力には訪れた皆さんもびっくりでした。今年には野菜が豊作ということもあ

体育館内のギネスの展示



おし せ ら

こんにちは 社協です

今年の産業祭で、来場した皆さんにボランティア登録の呼びかけを行ったところ、たくさんの人からの申し出がありました。中には、小中学生の個人ボランティア登録もあるなど、こうした福祉活動の担い手には期待が寄せられます。

「できることをできる時間に」のこの活動。あなたも一緒に参加しませんか。

工業・石油等消費構造 統計調査にご協力を

工業統計調査の目的は、国内の製造業の実態を明らかにすることです。調査結果は、国民所得の推計、産業関連表の作成など、各種の行政施策の立案・実施、経済分析などの基礎資料として幅広く利用されています。

石油等消費構造統計調査は、国内産業のエネルギー消費の実態を把握することが目的。エネルギー問題にかかわる施策立案の重要な基礎資料となっています。いずれも国の重要な統計調査で、平成六年一年間の製造業の実態と石油などの消費の実態を十二月三十一日現在で調査するものです。対象となる事業所には、県から任命を受けた調査員が、本年末から来年一月にかけ調査票を持って伺います。調査の内容は統計以外の目的に使用されませんので、安心して調査にご協力くださいますようお願いいたします。

サラリーマン

確定申告について

通常、サラリーマンは、年末調整によってその年の所得税の納税は完了していますので、改めて確定申告する必要はありません。

ただし、次のような方は、サラリーマンであっても確定申告しなければなりませんので注意してください。

【確定申告をしなければならぬ人】

①給与の年収が千五百万円を超える人
②給与所得や退職所得以外の所得の合計額が二十万円を超える人
③二か所以上から給与の支払を受けている人など。

なお、確定申告をしなくてもよい人で、確定申告すると源泉徴収された所得税の一部が戻ってくる場合があります。

【確定申告をすれば税金が戻る場合】

①ローンなどでマイホームを取得したり、増改築を行った場合
②病気やけがなどで多

額の医療費を支払った場合③災害や盗難に遭った場合④国や地方公共団体などに寄付をした場合。

無事故で

明るい新年を

年末を迎え、人の流れも車の量も多くなり、社会全体が慌ただしく動きます。しかし、あなたの気分まで年末の慌ただしさに巻き込まれてしまつては大変。思わぬ事故を起こす結果となります。

【飲酒運転の防止】

年末・年始の休みを利用して車でスキーに行かれたり、

帰省されたりする皆さん、安全運転は常心がけましょう。また、クリスマスパーティーや忘年会、新年会などでお酒を飲む機会も多くなりますが、くれぐれも「飲んだら運転しない」を肝に銘じてください。

【必ずシートベルトの着用を】車を運転するときは、自らシートベルトを着用することはもちろん、同乗車にも必ず着用させましょう。

交通事故は被害者になつても加害者になつても悲惨なものです。一人一人が交通マナーを高めて、家族全員無事故で明るい新年を迎えましょう。

■骨髄バンク推進月間

いのちを救えるのは
あなたかも知れない



保健婦だより

骨粗しょう症の予防

①中高年は、無理せず歩いたリ、こまめに体を動かす。若い人は足腰を鍛えて体重のかかるスポーツを。

②若い時からカルシウムたっぷりの食事を。中高年からでも間に合います。

③食事は、栄養バランスを考慮してビタミンDも忘れずに。塩分の取り過ぎはカルシウムの吸収を妨げます。

④日焼けしない程度に日光をほどこよく浴びる。

⑤タバコは止め酒はほどほどに

：健康で明るい老後を迎えるために、今日から始めましょう。

「相談は、岐阜県高齢者総合相談センター」へ

岐阜県高齢者総合相談センター（シルバー110番）では、高齢者に関する、あらゆる相談に応じ、悩みごとや心配ごとなどの解決のお手伝いをしていきます。

相談内容は、生活全般から医療、法律、税金、保健、介護、住宅、福祉機器といった専門分野まで幅広く行っています。

相談は、電話でも、直接お越しになっても、また手紙でもけっこうですし、匿名でも構いません。（相談はすべて無料）

また、高齢者の福祉、保健医療に関する情報を提供したり、車イス、ポータブルトイレ、食事関連機器、おむつ、医療、自具といった福祉機器の常設展示も行っています。

【照会先】〒500岐阜市下奈良二―二―一岐阜県福祉・農業会館六階岐阜県高齢者総合相談センター ☎〇五八（二六二）〇一一〇

【利用時間】午前九時から午後五時まで。

【休館日】土、日曜日、祝日、十二月二十九日～一月三日

「中濃地域」の語り、考えよう

私たちの住む中濃地域（四市、四郡の二十五市町村）は、美しい水や豊かな自然に恵まれ、自然と人々のふれあいに育まれた生活文化・産業文化から地理的な国土の「中央」であることと併せて「日本のふるさと」としての中心性をも感じさせる地域でもあります。

これからの中濃地域づくりには、これら地理的、環境的、文化的に優れた地域資源をどう

ういかすが極めて重要な課題といえます。

現在、中濃地域は都市機能の増進と居住環境の向上を広域的、一体的に進めるなどの「地方拠点都市地域整備」に向けた計画づくりを進めておられます。計画内容の反映も踏まえ、時代の要請を背景に、地域づくりに造詣が深く独自の視点を持ちながら第一線で活躍する学識者、空間デザイナー、ジャーナリストを招いてのシンポジウムを開催しますので多数の方のご参加をお待ちしています。

参加希望の皆様には一月九日（月）までに役場企画財政課までお申し込み下さい。

【日時】平成七年一月十三日（金）一三時三〇分～一七時

【場所】美濃加茂市文化会館【テーマ】「日本まん真ん中水と緑の環境文化交流都市圏をめざして！」

【問い合わせ先】役場企画財政課（有線五一八五）または中濃地方拠点都市地域整備推進協議会事務局（美濃加茂市役所企画開発課 ☎〇五七四（二五）二一一（内線二四六）までお尋ね下さい。

けいじばん

【戸籍】（敬称略）

●誕生おめでとうございます
（日向）—安江 忠 慶子（二女）
琴美

●いつまでもおしあわせに

前田一忠司（高山市）
安江三千代（下親田）

●おくやみ申し上げます

安江 小末 83歳（中通）
小池 正二 79歳（平）
桂川 正義 41歳（陰地）
桂川 實 84歳（陰地）

【善意】（敬称略）

【保健センター施設整備指定寄付】
現金30万円—村雲邦雄（中谷）
【生活改善センター指定寄付】
現金18,514円—商工会商業部会
【社会福祉協議会へ】
現金5万円—小池あい（平）
現金41,200円—神明神社奉賛会
現金10万円—桂川敬言（陰地）
【せせらぎ荘備品購入指定】
現金392,123円—神土婦人会平西支部
【東白川小学校へ】
竹ぼうき41本・ぞうきん95枚—老人クラブ高砂会
【神土保育園へ】
園児用はかま5枚—田口良子（平）

作文

一番大切なことそれは
私たちが皆同じなこと

毎年、十二月四日から十日までの一週間は「人権週間」です。

この期間中には全国各地でいろいろな関連行事が行われますが、その中に「中学生人権作文コンテスト」があります。今年、このコンテストのいわゆる地区大会となる美濃加茂大会で応募三百十五編の中から東白川中学校二年生の栗本雅世さん（柏本）の作品が見事入選しました。

栗本さんの作品をご紹介します。

「アジアの「人種差別」」 栗本 雅世

最近不思議に思うことがあります。「人の命は本当に平等なのだろうか」「人権というものは全ての人にあるのだろうか」ということです。私が、そんな疑問を持ったのも、あるテレビ番組で腎臓売買についての特集をしていたからです。アジアには、発展途上国で貧乏な家庭が多く、自分の腎臓を売る人が増えてきているそうです。しかし、お金が入っても借金の返済に使われてしまい、家族を支えるためにはまだまだお金が足りないというのが現状です。そしてその腎臓は、たとえば豊かな国アメリカや驚いたことにわが国日本の腎臓に障害のある方へも安い値段で受け渡されるそうです。

このことは、一見問題は無いように見えますが、本当にそうでしょうか。この取り引きの裏には「貧しいから仕方がない」「お金が無いのならこうするしかない」といった、人間の心の奥にある醜い心が隠されていると思いませんか。確かに腎臓の悪い方は、早くよくなりたいと願っているだろうし、私たち健全者にはわからない

いような苦しい思いをされていることだと思います。しかし、人の役に立ちたい」「命を



栗本 雅世さん

を救ってやりたい」という気持ちではなく家計を支えるために手放さなければならなくなった腎臓を、障害者の方が心から喜んで受け取れるとは思えません。

番組の中で腎臓を売った人がインタビューを受け「腎臓を売って本当に良かったか」という質問に「本当にいいシステムだと思う、良かったと思っているよ」と笑っているのを見ました。この人の言葉は私の胸に突き刺さり、悲しい犠牲者の一人かもしれない。

これから先、こんな悲しい犠牲者をたとえ一人でも増やしてはいけません。体はもちろん、家などを確保するために職を作ってあげたりすることも大切なことだと思います。周囲の国への関心と協力が無い限り、この「人種差別」の問題は消えないと思います。何も偉業を成し遂げることだけが、世界の役に立つことだとは思いません。身近にある募金なども十分な世界貢献だと思えます。自分を磨けば今まで遠くにあった「世界」が身近に感じられることでしょう。

私は今胸を張っていえます。何の迷いもありません。人の命は平等です。人の自由も平等です。誰にも束縛されず、誰にも邪魔されず、豊かであっても、貧しくても私たちは皆同じです。

出現

暑かった夏の贈り物？
牛フンの中から……

「袋へ詰めて移動しようと思っただけ掘り出してみたら、びっくりするぐらいじゃうじゃうカブトムシの幼虫が出てきて……」。との電話を受けて、さっそく電話の主の安江喜久男さん（栃山）宅へ駆け付けてみました。

冬場にかけて田んぼなどへ入れるために運ばれていた牛フンの山を実際にその場で掘ってみると、一度に数十匹ずつ次から次へとカブトムシの幼虫が現れ、ちよつと掘っただけでも数百匹はいる感じでした。

「毎年同じように牛フンを肥料にしています。こんなことは初めてです」と話して下さった奥さんの政江さん。子どもたちに根強い人気のカブトムシだけに成虫になってつがいにしてデパートに並べれば……などと思わず頭の中で計算してしまっ

ほどの数。カブトムシの幼虫が牛のフンの中で育つことはよく知られていますが、これほどの大量発生は、もしかししたら暑かった夏の影響かもしれない。



掘ってびっくり

話題集まれ!

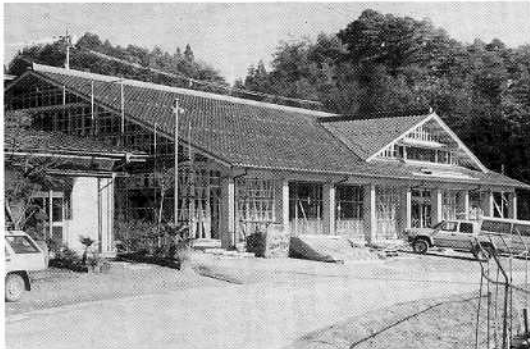
待望

純木造林業センター 来春オープン

村の林業の拠点施設として現在曲坂の林産物共販所の隣に建設中の「林業センター」。今年七月十一日の起工式後着々と工事が進められてきましたが、去る十一月十九日には関係者などを集め、盛大に上棟式が行われました。

村の林業の中枢機関となるこの施設は、特産である木材をふんだんに使った純木造二階建て瓦ぶき。一階には現在、役場別館（村民センター）にある森林組合が事務所を構えるほか研修室や会議室が設けられ、さらにこれまでは、山へ出られる作業班の皆さんは、自宅から直接現地へ行っていましたが、福利厚生を考慮して、いったんこのセンターでミーティングを行うための生産活動準備室も設けられます。また、二階には、産直住宅のモデル展示室があります。

ここは、部屋そのものが床の間などを持つ純和室。見学はもちろん各種研修などにも利用が可能です。この施設の完成で、あの一体に村の「林業ゾーン」が実現します。



建設の進む林業センター

栄冠

良い歯の東小が 名誉賞の特選校に

平成六年度の岐阜県歯の優良学校表彰（主催・県教育委員会、県歯科医師会ほか）において東白川小学校が、「特選校」に選ばれました。

これは、昨年に続いて二度目の受賞となります。

この表彰は、今年で三十五回を数える伝統あるもので、学校の歯科保健への取り組みに対し、規模別に県一位、準県一位が決められるものです。その中でも特にこの特選校は、長年にわたる学校歯科保健への実績が評価をうけるいわばこの表彰の中の「名誉賞」ともいえるもの。

東白川小学校は、昨年までの十二年間に中規模の部で県一位が六回、準県一位が五回、昨年は、初の特選校に選ばれるとともに、「全日本良い歯の学校」として文部大臣表彰を受賞するなどこうした高い実績が二年連続特選校という名誉に輝きました。

頂点を極めた素晴らしい伝統を守り伝えてきた姿勢がこうした高い評価をもたらしました。



6年生保健委員の皆さん

体験

ヨガを学んで元気に生きる 成人病予防推進員研修

十二月五日、成人病予防推進員の研修会がふるさとセンターで行われ、三十人の推進員の皆さんが参加しました。

この研修会は、年七回行われているもので、毎回「健康づくり」をテーマにいろいろな角度から研修を行っています。

今回は、「イキイキ生きる」をテーマにしたヨガ教室。日本では、健康・美容法として親しまれているこのヨガですが、もともとは、インド哲学の一つでめい想によって精神を統一する修行法だとか。

この日の講師は、下呂町からお越しいただいた国際ヨガ協会所属美容師の日下部順子先生。「サバアサナ」と呼ばれる休息のポーズや、「魚のポーズ」、「コブラのポーズ」など「アサナ」と呼ばれる動作のポーズ、また、締めくくりは「合掌」というヨガ独特の実習を体験した推進員の皆さん。

心身ともにリフレッシュした研修会となりました。



気持ちをリラックスさせることが大切



今月の笑顔さん

みんなが公園…のよつたなまへージ

学生時代の良い思い出に……

国際基督教大学四年 溝部 曉良

拝啓 今年の夏のツチノコの調査の折には、何かとお心配りをいただきありがとうございます。また、村の広報紙もお送り下さりありがとうございました。学生時代の良い記念として大切に保管しています。

十二月、忙月、木枯、干柿。軒先に下げた柿すだれは冬の農村の風物詩であったが、このごろはめっきり少くなりました。ところが今年はおちこちに見ることが出来ます。天候に恵まれて柿がドッサリ生ったからでしょう。

干柿の甘さは、今のよう菓子に菓子の少かった時代は貴重な甘味資源でした。干しているうちにカビが付くのを防ぐには、湯通しをするか、酒を振りかけると良いとか、そしてあの真っ白な粉は稲わらに包んで稲わらの持っている微生物の作用を利用するとか……気がついてみれば、まさに自然食品の代表のような干柿を、見直したくなってきます。師走、忘年会、良いお年を。

お便り

と考えております。これからも東白川村へは、今回のメンバーたちとイベントの時などにお邪魔させていただきます。またよろしく願います。末筆ながら東白川村のご発展を心よりお祈りいたします。 敬具。



職場から

郵便局

「地域に密着した郵便局が目標です」と話してくれたのは、局長の服田弘道さん。今月は、東白川郵便局をお訪ねしました。

現在、白川町から通っている四名の方を含め、十二人体制の同局業務内容は、大きく郵便、貯金、保険に分かれています。このほかにも、全国に約二万四千ある郵便局のネットワークを生かして各地の特産品を産地直送する、郵便業務が人気を呼んでいます。

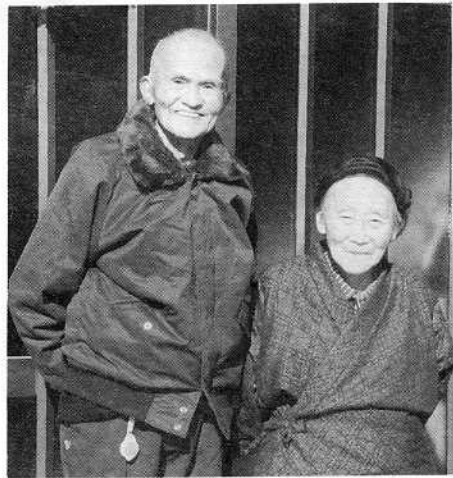
今が一年のうちで最も忙しい季節。元旦だけで村内に配る年賀状は約十一万通にもなるとか。服田さんは、「年賀状は、村内の場合でもできるだけ二十四日ころまで投函してもらえるとありがたいですね」と話してくれました。



▶安江平原くん
(真治さん・みのりさん
長男・黒瀧)

このコーナーの子どもたちみな同い年。
10年後、20年後「広報」をみればホラ！
1歳のあの子の顔が……

2 ツーショット 老夫婦



笹俣熊蔵さん・みののねさん（栃山）

「いつつもロゲンカは絶えませんが、二人ともまとめて暮らせることが一番です」と話してくれたのは、栃山の笹俣熊蔵さん、みののねさんご夫妻。今月ツーショットは、お二人合わせて百七十三歳の元気なお二人をお訪ねしました。

明治三十六年生まれで、今年九十一歳になられたご主人熊蔵さんと九歳違いの奥さんみののねさん。お二人が結婚されたのは、みののねさんが二十二歳のときだそうですから、連れ添って六十

十年になるとのこと。お二人の楽しみは、おそろいでせせらぎ荘へ行くことです。「おじいさんは、心臓が少し悪いので、外にあまり出ませんが、せせらぎ荘は、家まで迎えに来てもらえらるし、連れ立って行かせてもらっています。二か月に一回くらいですが、私らのような健康なもんはそれくらいで十分ですよ。」

夫婦円満の秘訣については「若いもんがようしてくれるで...」とのお返事。家族円満が一番のようです。

今月のことば 何の行動も起こそうとしないから、いつまでたっても夢のままなんであってね。やれ

集落めぐり 中谷

「東の加舎尾谷、西方の西洞谷に對し、その間に位置する谷を見立てて『中谷』と名付いたのである...」（新修東白川村誌より）。加舎尾と西洞の中間を流れる谷という意味からその名が付いたとされる中谷。現在は二十三世帯あるこの中谷地区ですが、天正検地のころは戸数が七戸だったとか。ここに「神田」という地名が残っています。

『岐阜県の地名』（日本歴史地名大系二一）の「神田神社」の項には、「慶長二年（一五九七年）加茂郡大地（現白川町）城主遠藤小八郎胤直が白山妙理大権現（現神田神社）を修復にあたり、神土郷中谷の神田三反歩を寄進した」という話が見られ、この神領については、慶長十五年（一六一〇年）の検地の際、没収されていますが、その名残が、地名となつて今もなお残されているようです。

図書室発・あなたへ



生きるヒント 五木 寛之著

この本を読んで思わす納得したり、あれ？と首をひねってみたり、それは人それぞれです。

どんなに人がほめる本でも自分にとって興味がないときはノーといえよ。なにより重要なのは、自分の感覚を信じること、人間は誰でも自分が一番大切なので、そんな自分を信じるためのヒントです。

ホットアングル



11月最後の日曜日となった27日、小学校の音楽会が開かれ、会場のはなのき会館は、詰めかけた父兄の皆さんなどで超満員となりました。はなのき会館での初の音楽会。少々緊張ぎみの子もいたようですが、合唱に演奏にといつもの練習の成果を思うぞんぶん発揮しました。



初めての音楽会に頑張った1年生



▶安江慶士くん（昭久さん・陽子さん 二男上親田）

満1歳

わが家のスター

発表の作品

俳句

俳句 狂俳

短日や言葉少なにすれ違ふ
秋の夜はづむ戦友との長電話
小豆採る老婆は知らず襟の虫
焚かれつ、誇れる菊はなほ香る
独り住む友の咲かせし菊見事
明日はなき花夕顔の白さかな
夏バテに負けじと朝のバンド締む
モクモクと煙突の煙文化の日
片肺の痛みをいだき冬に向く
紅葉山夕日を肩に虹の色
桐一葉ありなしの風に散り舞へり
黄蜻蛉飛び交ふ空やブルの音
冬に入りほこり払へり戦争誌
発掘を終えし遺跡や草紅葉

日向 安江一滴水
栃山 安江市助
平 安江とくよ
加舎尾 新田 義男
栃山 桂川 喜郎
平 安江 武子
神付 安江 統子
平 今井 耕子
中谷 田口 耕作
西洞 河田あや子
曲坂 菊田 清美
中通 村雲みか子
日向 田口 秋映
宮代 安江 奎一

狂俳

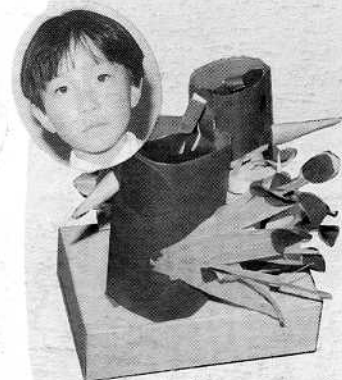
虫の声も霧につ、まれ明け初める
てっせんや季節外れの返り花
夢破る夜半の寒雷唯一つ
泣くにも泣けず
坊の庭師が腕ふるう
評 可愛い、孫で怒るに怒れず
おだてられ
広野に散った戦友哀れ
評 俺は恩給で旅しとる
泣くにも泣けず
一つも勝てず怪我をする
評 素質はあるが相撲へたくそ
おだてられ
豚と一っしよに木にのぼる
評 上まで行けずぶち落ちて痛い
おだてられ
財布はたいて二日酔う
評 かみさんぶりぶり朝を掃く
泣くにも泣けず
宮代 安江 奎一
神付 安江 司
西洞 河田 重喜
平 安江 すみよ
安江 すみよ
西洞 河田 重喜
西洞 河田 無声
西洞 河田 あや子
清流軒 久永

投稿は奇数月の二十日までに、俳句は西洞河田重喜宛・狂俳は陸地安江水吉宛までお寄せ下さい。なお、次回の狂俳は「かたい」「浅い春」「見て見ぬふり」です。



▲「おじいちゃん、おばあちゃん」
神土保育園

▲「おじいちゃん、おばあちゃん」
神土保育園たぐちたいせいくん
(平)



▲「動くおもちゃ「くじやく」」
東白川小学校2年生安江佐穂子さん
(黒潮)



▲「コリントゲーム」
東白川小学校4年生
今井清美さん
(宮代)



▲「風景画」
東白川中学校1年生
安江千章さん(中谷)



▲「風景画」
東白川中学校1年生
安江晴香さん(大明神)



子どもが大勢集まって十円玉を握って順番を待って

昔懐かしい駄菓子屋さんだ。小学校一年生くらいの子どもが、一個十円の菓子をどれにしようか選んでいた。小生も興味を持って見ているうちに、かつて一丸屋や永福屋、東京堂へキャラメルを買いに行つたことを思い出した。▼運動場では、ブタやヒツジが親子の人気を集めていた。「事務局に、写るんです」を売っていないですか」と数人から問い合わせがあったが、子どもたちがブタやヒツジ、ウサギと遊ぶ姿を見て納得した。▼この動物たちには役場職員の手伝いがある。岐阜市の畜産センターから借用してきたが、三日間の保管中にブタが逃げ出し、茶畑の中をクタクタになって捕まえた。そんな苦労を知ってか、産業祭は天候にも恵まれ大盛況であった。▼次は、体育館の中で糸つむぎを体験して、田舎を再発見しなくては…。